

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872800301		
法人名	社会福祉法人 日の出福祉会		
事業所名	グループホーム琴音		
所在地	兵庫県加古郡稲美町国安1256番地		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvoSvoCd=2872800301-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所北別館3階		
訪問調査日	平成31年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今迄の生活習慣を出来る限り継続し、変化を少なく抑え不安を軽減させながら、自然な形で普通の暮らしが出来るように支援しています。年5回の家族会と年1回の一泊旅行を9年間継続できています。家族会を通して、利用者様、家族様との信頼関係が構築されています。また、家族様同士が支え合う環境になっていることが嬉しく感じます。自立支援の実践に、利用者様、一人一人の今迄の生活習慣から出来る力を引き出し、家事仕事や趣味等を継続することで、充実した生活が送れるように努めています。認知症カフェ愛を平成28年5月に立ち上げました。毎月第4日曜日に実施。専門家による介護相談、ボランティアによるリズム体操やゲーム、お茶を飲みながらおしゃべりをし、どなたでも気軽に来て頂けるようにしており、お客様と一緒に和気あいあいと過ごす事ができています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族会が一泊旅行を含め年5回開催されている。参加者は総勢約50名以上で、家族の男性陣は菜園の草刈り・庭木の剪定等を、女性陣は昼食づくり等の役割を主体的に果たすようになっている。七夕やバーベキュー行事も行われている。一泊旅行には全家族が参加しており、利用者、家族、事業所職員の総勢70名以上の規模になっている。一泊旅行を含め家族会が定期的に開催されることにより、利用者、家族、事業所職員が交流を深め密接な関係性が育まれ、相互の信頼関係が構築されていることがうかがえる。利用者や家族との絆を保つことを大切にされて家族とともに介護が行われていると言える。また地域との交流活動も評価したい。年4回地域の清掃活動に参加したり、平成28年5月より毎月1回、事業所にて認知症カフェ「カフェ愛」が継続して開催され近隣の方やボランティアが多数参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着事業の理念として事業所独自の「グループホーム琴音5か条」を作り、毎朝のミーティングの時に唱和を行い共有と意識付け、実践に繋がるよう取り組んでいる。	法人の理念に基づき、独自の憲章5か条を制定している。事業所内に掲示すると共に、グループホーム琴音の案内ちらしにも明示し、内外に周知を図っている。朝のミーティング時に月替わりで1項目ずつ唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	支援学校の生徒さんの喫茶に参加、夏祭りや家族会、認知症カフェ愛(H28.5～)、傾聴ボランティア、紙芝居ボランティア等地域の方との交流を定期的実施している。	自治会や地域で組織する「琴池を愛する会」に加入し、年4回の琴池の掃除に参加している。「認知症カフェ 愛」は事業所で月1回開催して3年目になる。近隣の方やボランティアが多数参加し、利用者で交流している。法人の夏祭りにも地域の方が参加している。隣接する特別支援学校が昨年初めて行った、法人のスペースを利用した出張喫茶には、利用者と共に出かけたり、傾聴ボランティアなど地域ボランティアも多数受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修、介護福祉士実務者研修の講師、見学者の説明、見学、入居希望者の相談・認知症カフェ愛に参加したお客様の相談が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を実施し、運営状況、利用者状況、職員の状況報告、事例を通して取り組みを伝え、意見交換を行っている。	2カ月に1回開催している。家族代表・自治会長・民生委員・稲美町職員・社協職員などが参加している。家族代表は家族会の代表を務めている。運営状況を伝えたり地域の情報を得るなど運営について活用する取組が行なわれている。昨年は初めて参加者に家族会にも参加してもらった。家族に運営推進会議を知ってもらう機会となった事例がうかがえた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市町村担当者へ伝えている。	町の職員に運営推進会議に参加してもらっている。夜間の施錠が身体拘束にあたるかどうか、国に問い合わせてもらうなど協力を得ている。昨年度は、町主催の地域ケア発表会(年1回)に参加し、認知症カフェについて発表している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一度実施し、会議の場で周知している。定期的に勉強会を実施理解している。利用者様が外出する場合は拘束をせずに付き添い見守りを徹底している。会議や話し合いの度に身体拘束への理解を深めるよう話し合い、その方にあつた対応をしている。予測されるリスクについて、ご家族と相談し安全に自由な暮らしが出来る様工夫し取り組んでいる。	身体拘束排除マニュアルがある。身体拘束の事例はない。法人で身体拘束廃止委員会を設置し、3カ月に1回以上検討している。年2回研修を実施し、全職員に周知している。玄関・ユニット出入口・エレベーター扉共に施錠はしていない。入り口の出入りはセンサーのメロディーで感知している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いに十分気をつけるようにしている。常に話し合い、又、勉強会等により理解し防止に努めている。職員のストレスが溜まらないような環境に努めている。法人に於いて、毎年、倫理研修を全職員に対して行っている。	身体拘束と併せて虐待の研修を行っている。法人で倫理基準を踏まえた研修を実施し、虐待防止に努めている。管理者は職員の毎日の挨拶や行動に気を配り、いら立ちなどが気になれば声をかけ、話を聞くようにしている。ストレスを溜めないよう、休日や休憩がしっかりと取れるよう配慮している。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体研修に参加し、会議の場で発表し全員に周知している。	成年後見制度を利用している利用者は1名おられる。制度に関する研修は行われていない。研修は洩れのないよう年間計画を立て、題目・開催日時・参加者を明記し、資料と併せた実施記録を残してほしい。	地域密着サービスとしての役割を担うため、職員にも成年後見制度の理解が求められる。パンフレットを備えて、必要な方への情報提供ができるようにしてもらいたい。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接、見学、入居説明を十分に行い、実際に見て頂くことで家族様、利用者様が安心できるよう配慮し、理解、納得に繋げている。	契約前の事前面接・見学を丁寧に行っている。迷いのある方には、お茶を飲みに来てもらったりして慣れてから契約に至った事例がある。契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を示し理解を得ている。看取りに関する本人・家族の意向や、延命治療の希望の有無など、同意書も合わせて取ることを勧める。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会で意見交換の場を設け 意見、要望を聞いている。来所時は、普段の生活の様子をお伝えし、意見、要望を聞くようにしている。	家族会は年5回開催している。その内1回は一泊旅行で、利用者・家族、職員も含めて楽しんでいる。職員との信頼関係が築けており、打ち解けた場などで、意見・要望を聴いている。事業所の庭木の剪定を申し出られお願いした事例がある。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年毎の面談と毎月の会議の中で意見交換を行っている。	職員会議はユニット毎に月2回行っている。全体会議は月1回、カンファレンスを月1回実施している。その他、リーダー会議や法人での委員会活動があり、職員の意見・提案を聞く場は多い。管理者と職員間のコミュニケーションは良好で、意見の表出し易く、管理者との面談も6か月に1回実施している。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と1年に2回、人事考課表による評価、面談をおこなっている。管理者は、いつでも相談が出来る環境を作り、職員の意欲向上に努めている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修に参加し、内部で発表の場を設け、報告、実践し共有している。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町の責任者会議、勉強会に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄の生活歴、生活習慣の情報を収集し、今迄の生活を出来る限り継続できるよう環境を整えている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人としっかりと話し合い要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接をした情報を元にし、今、どのような支援が必要なのかを見極めたサービスに務め、安心、安全な生活が過ごせるように環境を整えている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支え合う努力をしている。一緒に食事作りや洗濯、掃除等その方と一緒に暮らす関係を築いている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お母様の誕生日を、息子様と職員と一緒に好きな料理を作り皆でお祝いしました。 ご家族が来所された際は、居室やリビングでお茶を飲みながらゆっくりと過ごせる環境づくりに努めています。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友達が訪ねてこられたり、昔通っていた喫茶店に通うなど、ご本人が大切にしてきた関係を大事にしている。	本人が大切にしてきた人や場所を把握し、継続を目指した支援が行われている。昨年は、利用者との会話から聞き取りした、行きつけの喫茶店に同行し、喜んでもらった事例がある。会いたい友人の話を家族に伝えて、連れて行ってもらうことになったり、家族と墓参りに行った事例がある。お正月を自宅で過ごした方もいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格などを把握し、利用者同士が関わり合い環境をつくる。 一緒に洗濯ものを畳んでもらったり掃除等を手伝いながら支え合うよう努めている。難聴の方、目が見え難い方が他者と気軽に話せるようスタッフが間に入るなど、常に全体の環境、関係を大切にに関わり方をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された利用者様には、その方が安心して生活が出来るように転居先の職員に情報を伝えている。また、面会に行く事もあります。退去された家族が相談に来られる事やボランティアとしての参加もあり良い関係が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	より正しい生活を送れるよう利用者本人の状態を把握していく。伝えるのが難しい方は、表情や行動から汲み取り、家族と相談しながらその方は気兼ねなく生活できるようにしている。	アセスメントは入所前面接調査票に記録している。生活歴など細やかな聞き取りをし、思いや意向の把握に努めている。好きなもの・嫌いなものを記録する項目はあったが記述はなかった。	利用者の思いや意向など聞き取った内容についてミーティングやケース記録に埋もれてしまうのを防ぐため、個別の様式を作成してはどうか。新たな利用者の好き嫌いも含めた職員の気付きを記録して全職員で共有し、活きた介護計画につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の情報を把握出来るようにファイルが作成されている。 衣服、寝具等今迄使っていた馴染みのものを使用してもらって不安の軽減に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態を記録し職員全員で情報の共有をする。 それぞれの有する力を把握しそれぞれに合った生活ができるよう努めている。編み物、洋裁、読書など思い思いに過ごして頂いています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議で話し合いを行い各利用者本人のケアに努めている。 月に一度のカンファレンス会議や日々の申し送りの中で課題やケアの有り方について話し合ったうえで介護計画を作成している。	前回の第三者評価受審後、目標達成計画に挙げ取り組んだ。 新たにモニタリング表と評価表を作成している。介護計画は月1回のカンファレンスで検討し、概ね年1回見直しをしている。6か月に1回モニタリングを行い、1年に1回評価をして新たな計画を立てている。短期目標の期間を短くして、達成できそうな目標設定が望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日にあったこと、気づいたことを記録し職員間で情報の共有を行っている。 会議や毎日の申し送り時等に情報を共有している。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お母様の誕生日に、息子様が料理を作って食べさせたいと相談があり、職員と一緒に好きな料理を作り皆でお祝いをしました。ご家族やご本人の希望に添って自由に外出や外食を楽しまれています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物や行きつけの喫茶店に出掛ける。認知症カフェ愛に来られるボランティアの方や傾聴、畑のボランティアの方達との関わりを持っています。事業所内保育があり、園児との交流があります。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を踏まえ、内科、歯科往診、受診で適切な医療が受けられるようにかかりつけ医との医療連携に努めています。	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医に受診している。現在、協力医以外のかかりつけ医に受診している利用者は1名となっている。通院は家族に介助してもらっているが、緊急時などやむを得ない場合は職員が対応する。他に、眼科等へ家族の支援で受診している。受診内容などの情報は、家族を通じて把握している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が訪問し、バイタル測定を行う。現状報告、相談を行い、Drとも相談できる環境にあり、緊急時の連絡体制が出来ている。変化があればどんな細かな事でも看護師に伝え相談している。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の家族との連携、協力、状態の確認をし、病院の情報交換に務め、退院後の対応も相談し安心した暮らしが出来るように努めています。早期な入退院に努めている。	利用者が入院された時は、早期退院に向けて家族や病院と連携している。前回の第三者評価受審後、目標達成計画で入院時の情報提供の様式作成を挙げた。今回、アセスメントシートと日常動作スケール(ADL)を情報提供として提出することを確認した。入院中は見舞いに行き、退院のカンファレンスに参加している。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	速い段階から予測出来る事を家族と話し合い、Drからも十分に説明を行う場を設けている。家族、Dr、看護師と連携を取ながら看取りが出来る。看取り時は、常に家族が付き添えるように環境を整えている。速い段階から家族の方針を共有している。	昨年は4名の看取りを行った。いずれも穏やかで、他の利用者と共に送迎を行った。直前の事例では、家族への連絡時期も適切で、最期の夜は居室にソファベッドを運んで過ごしてもらった。重度化した時は協力医が家族に十分に説明し、同意をもらって対応している。職員には看取りの研修を実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成、緊急時の対応をきちんと指導されている。定期的に研修し落ち着いて対応できるように見つけている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、併設の稲美苑と総合訓練、夜間想定訓練、消火器を使用している実践を行っている。	法人施設合同で、火災の避難訓練を年3回実施している。1回は夜間想定で、ほかに日中共同避難と緊急連絡網の訓練をしている。事業所独自では年1回夜間想定での避難訓練を実施している。稲美苑に事業所分として1日分の備蓄を備えている。	地震や風水害を想定した対応を検討し、訓練を実施してもらいたい。消防署員によるアドバイスを受けてはどうか。ハザードマップでの確認や、事業所で備蓄する計画を進めてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるよう心がけている。 毎日が初めてで、初めての場所にきている感覚の方や毎日通いで来ていると思っている方など、その方の想いを汲み取り、周りの環境にも配慮しながら尊重した関わり、対応に気を付けている。	1人ひとりの思いを尊重した支援をしている。職員の言葉がけや対応は穏やかでさりげない。認知症の思い込みやこだわりにも、1人ひとりに合わせた言葉がけや対応で支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、ご本人の思いや希望を引き出すようにしています。 本人に決めてもらえるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者を把握して快適に暮らしていけるように努めている。 毎朝の申し送り時にその日の実践していく予定を発表し意識の統一を図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、毎朝、自分で着たい服を選んでもらっています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜の土の処理や調理、食事、片付けなど利用者様の力を活かしながら職員と一緒にやっている。	献立作りは職員が行っている。食材は近くのスーパーから購入しているが、事業所の菜園で育てたいろい野菜がよく使用されている。利用者はその人の持てる力に応じて職員と一緒に調理、盛り付け、配膳、片づけ等を行っている。中には野菜の皮むきや包丁で野菜を切ったり、天ぷらを揚げられる方もおられる。職員は利用者と同じ食卓で同じ料理を談笑しながら一緒に食べている。時には外食を楽しんだり、家族会で家族、職員と一緒にバーベキューを楽しんだりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事、水分量を把握し「摂取」の声かけをしている。 刻みやミキサー食、水分にトロミつけて対応している方もいます。基本的には普通食を提供しています。			

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食後、歯ブラシやうがいを毎日行っている。Drの指示にて、食後、塩水でうがいをされている方がいます。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄のパターンを把握し自立に向けた支援を行っている。自尊心に配慮したさり気ない声掛けを徹底しています。	利用者一人ひとりの排泄リズムと習慣を把握して、羞恥心に配慮した声掛けとトイレ誘導を行いながら自立に向けた支援が行われている。全ての利用者はリハビリパンツまたは布パンツやパッドを使用されているが、おしめの方はおられない。夜間に限り4名の方がポータブルトイレを使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日数を確認し排便を状況により促している。食べ物や水分又は散歩等で予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤等を使い気持ちよく入ってもらうために声かけもいろいろ工夫をしている。浴槽から見える中庭には椿の花やくまざさ等が見え旅館のような趣があります。	利用者の希望に応じた入浴支援が行われており、利用者は週2回午前、午後に入浴を楽しんでいる。柚子湯、菖蒲湯を楽しむ工夫も行われている。入浴拒否者がおられるが、タイミングを外したり、利用者の納得のいく誘導等の工夫をしたりして、入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、出来る限り、その方の状態に合わせて身体を動かしたり、集中出来る事を支援している。昼寝をされる方、ゆっくり起きる方、遅く眠る方とその方の生活リズムに合わせた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明が書いているファイルがいつでも見えるようしている。日々の申し送りで情報を共有し、状態の変化に気付くように注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を理解し、会話の中でその方の思いや希望を知る事でこれからの支援方法を考えて行く。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に外出を計画し、職員で協力して行っている。家族と一緒に外食や自宅に帰るなどなるべく本人の希望に添えるよう努力している。	利用者の希望で琴池付近、菜園を散歩したり、近くのスーパーへ買物に行ったりしている。職員や家族と一緒に菜園で育てた野菜や芋を収穫することもある。また外出計画に沿って春には近くの公園で桜見物に行くなど、家族会での一泊旅行を含め年6～7回みんなで外出し、時には外食を楽しんでいる。稲美苑の庭で近隣の保育園児と交流する場面もある。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には管理をして頂いているでも使える環境にあります。買い物と一緒に付き添い希望の品を購入できるように支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎朝、娘様から電話があり話をしています。ときには、ご自身で子供達に電話を掛けることもあり、何時でも電話が出来るように支援しています。手紙、年賀状の支援もしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心掛け常に衛生に気を付けています。陽だまりまで自由に行き来され、談笑されている。室温等に注意し、季節ごとの花を植え、季節を感じて頂いています。	玄関、居間兼食堂、台所、廊下、浴室、トイレ等の共用空間は整理整頓され、住むための環境が整備され居心地よく過ごせるようになっている。季節を反映して利用者の健康を守るための加湿器が何台も設置され稼働している。居間兼食堂の入口や廊下の両側にある各居室の入口には、各人専用のショーケースが設けられて各人の馴染みの品々や思い出の写真等が飾られており、各居室の表札は本人の直筆で書かれている。また行事写真や観葉植物、季節の生花も飾られている。1階ガラス越しのペランダには、彩り豊かなパンジーが咲いているプランターが階段上に幾重にも配置されている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子を設置していつでも利用できる空間を作っている。日当たりの良い場所に椅子、テーブルを置き、又、ソファなども自由に使用して頂いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていた家具、布団などを持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫をしている。部屋の絨毯の上、座椅子に座って家族と過ごされる方も居られます。	居室は掃き出し窓になっていて明るく清潔である。入居者の思いの好みのものであるタンス、テレビ、時計、移動式ハンガー等が持ち込まれ、家族の写真が飾られて居心地よく過ごせる空間づくりがされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙や表示などをし、一人一人が分かり易い様に工夫をしている。居室内は、その方の状態に合わせ、家族と相談をしながら、家具の配置や洗面所の角にコーナーガードでの保護や床にクッション性のマットを敷くなど、安全に歩行ができる工夫をしている。家事仕事や編み物、裁縫、園芸など出来ることを継続して自立に繋げている。		